

生産調整進み、1万ドル回復へ

ニッケル

ニッケルのロンドン金属取引所（LME）相場は、上半期中に1万ドルを回復する展開が予想される。

1年前は1万4000ドルを付けていたLME相場だが、昨年秋に1万ドルを割り、足元は13年ぶり安値の8000ドル台を底ばい推移している。中国のステンレス減産に対し、スマルターの生産調整が遅れて供給余剰が拡大したことが背景にある。

ただし、現価格では全てのスマルターが赤字だ。1月に豪QILN、2月に伯ポトランスチが停止するなど、生産調整は着実に進んでいる。中国もニッケル銑鉄（NPI）を2〜3割減産して、フェロニッケルの調達を始めた。こうした減産の効果が出てくれば、40万トンを超えるLME在庫も徐々に減っていくだろう。

鍵は原油価格と中国景気。中でも商品市場を引っ張るのが原油価格だが、まだ先行きは不透明だ。需要面では、海外で本格生産が始まる多ニッケル型の車載用リチウムイオン電池に期待したい。



メタルドゥ社 社長

山頼敏彦氏